

○ EM (Oracle Enterprise Manager) の利用と操作

SYS ユーザーのための SYSDBA での接続

接続先 URL : <http://1158/em>

ログイン画面

ユーザー名 :
パスワード :
接続モード :

管理者ユーザーの一覧

右上の「設定」をクリック → 左側の「管理者」をクリック

- SYS スーパー管理者
- SYSMAN リポジトリ所有者 ← DB 構成情報、バックアップ記録など
バックグラウンド・サービスの稼働ユーザー
- SYSTEM スーパー管理者

セッション管理

[パフォーマンス] タブ → その他の監視リンク・セクションの「セッションの検索」

● 選択基準に WHERE 句を使用して選択

username = 'KOZUE' (ユーザー名で検索して、セッションを表示)

データベースの停止と起動

SYS ユーザーにて SYSDBA を指定してログイン

[ホーム] タブ→一般・セクションの ボタンのクリックにより操作する

「起動/停止：ホストとターゲット・データベースの資格証明」画面で、OS の管理者ユーザーの Administrator とデータベース側管理者 SYS、接続モード DBA を入力して、 ボタンをクリックする

「起動/停止：確認」画面で

【開始時】 ボタンをクリックすると、データベースの起動 (NOMOUNT 状態)、データベースのマウント、データベースのオープン) を選択できる

【停止時】 ボタンをクリックすると、標準 (ユーザーのログアウトを待って)、トランザクション (実行中処理を完了まで行って)、即時 (ロールバックの実施)、中断 (強制終了) を選択できる

確認が出来たら、 ボタンをクリックさせ、起動 or 終了を行う

データファイルを確認する

[サーバー] タブ→・記憶域セクションの「データファイル」
使用している表領域の物理ファイル一覧が表示されます

制御ファイルを確認する

[サーバー] タブ→・記憶域セクションの「制御ファイル」
使用している制御ファイルの物理ファイル一覧が表示されます

REDO ログファイルを確認する

[サーバー] タブ→・記憶域セクションの「REDO ログ・グループ」
使用している REDO ログ・グループの一覧が表示されます
グループの「数字」をクリックすると、選択した REDO ログ・グループを構成する物理ファイル一覧が表示されます

権限ロールのユーザーへの割当て

※ ロールとは、システム権限、オブジェクト権限、他のロール権限を複数まとめた権限グループです。これをユーザーに割り当てることにより、グループごとに同一権限での設定が出来ます

[サーバー] タブ→セキュリティ・セクションの「ユーザー」
該当ユーザーにして、編集 ボタンをクリックする

[ロール] タブ

リストを編集 ボタンをクリックして、必要な権限を指定する

```
GRANT "ロール権限" TO ユーザー名 ;
```

※ ロールを指定する場合だけ、ロール名をダブルクォーテーション (") で囲む必要がある

ユーザーへのシステム権限、オブジェクト（操作）権限の割当て

[サーバー] タブ→セキュリティ・セクションの「ユーザー」

[システム権限] タブ

リストを編集 ボタンをクリックして、必要な権限を選択します

[オブジェクト権限] タブ

オブジェクト・タイプ ビュー を選択して、追加 ボタンをクリックします
必要な権限を選択します

```
GRANT システム権限 TO ユーザー名 ;  
grant select any dictionary to ichiro ;
```

```
GRANT オブジェクト権限 TO ユーザー名 ;  
grant select on scott.emp to ichiro ;
```

テーブル（表）の表示

[スキーマ] タブ→データベース・オブジェクト・セクションの「表」
表セクションの検索 スキーマ を入力して ボタン
をクリックすると、ユーザーの所有している表の一覧が表示されます

シノニム（別名）の作成

[スキーマ] タブ→データベース・オブジェクト・セクションの「シノニム」
「シノニム」画面が開いたら、 ボタンをクリックします
名前を決め入力し、タイプには、パブリックを選択して、元となるオブジェクト
欄には、対象のオブジェクトを指定します

ボタンをクリックするとシノニムが作成されます

SQL文 CREATE PUBLIC SYNONYM シノニム名 FOR オブジェクト名 ;

```
create public synonym pub_syn for scott.emp ;
```

SQLワークシートの使い方

[ホーム] タブ→関連リンク・セクションの「SQLワークシート」
SQL文入力エリアに必要な Select 文を入力して をクリックする

- ※ SQLワークシートは、tnsnames.ora ファイルの設定無しで利用できる
SQLコマンド実行後、[統計] タブには、経過時間、CPU時間、ディスク読取り
時間などの SQL 実行統計が表示される。
また、[プラン] タブには、SQL 実行計画が表示される

「SQLワークシート」の「SQLコマンド」ボックスに複数の SQL 文を記述した場
合には、「最終実行 SQL」の結果しか表示されない

もしくは、「SQLコマンド」ボックスでマウス選択した SQL 文だけの実行が可能
である

CPU負荷とメモリー使用量の調査

[ホーム] タブ→一般・セクションのホスト CPU 表示の「【その他】」をクリック
[パフォーマンス] タブ内に、「CPU 使用率」、「メモリー使用率」、「ディスク I/O 使用率」の3つのグラフが表示されます

それぞれのグラフの下側に表示されている青色の文字 (CPU 使用率 or メモリー使用率 or ディスク I/O 使用率) をクリックすれば、さらに詳細なグラフが表示されます

もしくは、[パフォーマンス] タブで、表示欄で **CPU 詳細** **メモリー詳細** **ディスク I/O 使用率** | ▾ を選択しても、詳細情報は表示されます。

ディレクトリ・オブジェクトの作成と対象ディレクトリ・パス

[スキーマ] タブ→データベース・オブジェクト・セクションの「ディレクトリ・オブジェクト」

ディレクトリ・オブジェクトの一覧とディレクトリ・パスが表示されます。

作成 ボタンをクリックすると、新たなディレクトリ・オブジェクトが作成できます

対象ディレクトリ・オブジェクトを選択●して、**編集** ボタンをクリックすることにより、ディレクトリ・パスを変更することが出来ます。

システム停止時間の表示

[ホーム] タブ→一般・セクションのステータス「稼働中」をクリックすれば、可用性 (ステータス) が表示されます。

これは、稼働時間、停止時間、システム・エラー時間が円グラフで表されてきます

起動時間 : Oracle システムが仕事をしていた時間

エージェント停止時間 : 実行作業が無く待機していた時間

ターゲットの停止時間 : Oracle が停止していた時間 (起動中の準備作業含む)

ブラックアウト時間 : 管理者の指示により故意にブラックアウト (停止) させていた時間

システム・エラー時間 : エラーが発生して Oracle が停止していた時間